3 アドバイザー派遣個別評価

表 3.1～3.10 に派遣事業者ごとの実施概要を示す。

表 3.1 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	A 研究会(地域企業の集合体)	所在地	群馬県桐生市	
派遣先の概要	学会に関連した産学連携を目的とした研究事業団体			
派遣日	2006. 10. 5(木) 10:00～17:00			
派遣者(数、属性)	(社)産業環境管理協会 青木良輔、中野勝行			
参加者(数、属性)	17名(開発、研究)			
アドバイス分野	ライフサイクルアセスメント(LCA)			
アドバイス内容	第1部 LCAの概要、第2部 LCAの手法という構成で、LCA全般について述べた。参加者の多くが初心者とのことで、第1部では、LCAが社会的に求められるようになった背景、ISOの枠組み、QFDEや環境ラベルへの応用などについて詳しく述べた。第2部では、LCAを実施する際の実際の手順を「目的と調査範囲の設定」「インベントリ分析」「ライフサイクル影響評価」という流れに沿って説明し、最後にケーススタディーを紹介して総復習とした。			
反応(質疑など)	特になし。			
派遣 先 意 見	制度認識手段	その他:環境ビジネス人材育成セミナーに参加した際に本事業を知った		
	利用の狙い	今後の環境経営の促進に必要な諸手法を知る(学ぶ)ため		
	印象・評価 コメント	良好 LCAの構成、LCAの求め方、評価などが過去の概要講演を基により基本的に話され、研究開発、生産プロセス等の改善へのヒントが得られやすかった。		
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) 事例が具体的で、教材が適切であった。		
	類似制度利用	☐ 無	☒ 有	
	本制度の再利用	☐ 検討しない	☒ 検討する ⑩ライフサイクルアセスメント(LCA) ⑪環境適合設計(DfE)/製品アセスメント	
	自由意見	実施時期をもっと早くしてくれると利用しやすい(年度前期希望)		
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	循環ビジネス人材教育事業の関東経済産業局管轄分について、事業を開始した平成15年度から告知協力してくれていた群馬県の企業集合体からの依頼により実施した。参加者のほとんどが中小企業に所属しており、これからLCAを導入しようとしているため、ものめずらしそうに聞き入っている様子を感じとれた。LCA普及のために、有効的な研修となったと思われる。			

表 3.2 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	A 協議会(地域企業の集合体)		所在地	熊本県熊本市
派遣先の概要	九州地区の食品企業による環境研究協議会			
派遣日	①2006.10.20(金) 14:45~16:45			
派遣者(数、属性)	日和産業株式会社 環境ソリューションセンター シニアコンサルタント 西田 眞吾			
参加者(数、属性)	30名(環境保全、施設管理、製造管理)			
アドバイス分野	環境・廃棄物／リサイクル関連法規			
アドバイス内容	第1部は廃棄物・リサイクルの全般的な話、第2部は「食品リサイクル法」と「容器包装リサイクル法」に特化した話の2部構成で展開。第1部では、まず不法投棄等の事例を幾つか挙げて法遵守の必要性を説明した後、循環型社会形成のための廃棄物・リサイクル関連法の解説、リサイクル技術・循環ビジネスの紹介を行った。第2部では、食品リサイクル法・容器包装リサイクル法の詳細説明、及び今後の改正動向について述べた。			
反応(質疑など)	①容器包装の委託料について ②一般廃棄物と産業廃棄物の扱いを一緒にしようとする扱いについて			
派遣 先 意 見	制度認識手段	その他:昨年も利用した。		
	利用の狙い	その他:本協議会の活動の一環として、今後必要であるため		
	印象・評価 コメント	良好 廃棄物関連の法規制に関して、背景から紹介していただき、特に関連が深い食品リサイクル、容器包装リサイクルを中心に講義していただけた。		
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) 具体的な事例(←重要)があつてよかった。		
	類似制度利用	○ 無	有	
	本制度の 再利用	検討しない	○ 検討する ④リサイクルシステムと法整備 ⑤環境・廃棄物／リサイクル関連法規	
	自由意見	食品業界を取り巻く状況は、環境関連法の改正等最近変化が激しく、環境関連法は担当者だけが知っていればよいものではないということを知ることができてよかった。		
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	昨年度に続いての利用となった。協議会総会のプログラムの一部として組み込まれたため、参加者のほとんどが経営者・管理者層であり、直接経営に係わるものとして真剣に研修に聞き入る姿が印象的だった。本年度、もう1回の利用を希望していたが、宮崎県の鳥インフルエンザの影響からか、その後の申し出はなかった。			

表 3.3 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	A 社(機械製造系)	所在地	京都府京都市
派遣先の概要	電機印刷製版機器、IT 関連、プリント基板製造装置、半導体製造装置、液晶製造装置		
派遣日	2006. 11. 22(水) 10:00~16:30		
派遣者(数、属性)	(独)産業技術総合研究所 増井慶次郎、(株)アイデア 笠井 肇		
参加者(数、属性)	72 名(技術開発、設計、管理、環境安全)		
アドバイス分野	環境適合設計(DfE)／製品アセスメント		
アドバイス内容	環境適合設計(DfE)がライフサイクル全体を通して環境負荷低減を図るための設計活動であることを理解してもらうことを目的とした。前半は概要と実務についての説明、後半は DfE を実施するための支援ツールとして製品アセスメント、QFDE、DfE チェックリスト、QFDE を利用した DfE 手法を中心に行った。また、IC パッケージ、油圧シヨベル等への DfE 適用事例を紹介した。		
反応(質疑など)	<ul style="list-style-type: none"> ・基準製品がない場合の製品アセスメントの方法 ・顧客重要度の点数の付け方について ・QFDE で次ステップに進むときの「工学的尺度の改善率」の数値計算の方法 ・製造、使用、廃棄等を製品毎に専用ソフト Simapro で算出しているが問題ないか? ・コストやリードタイムを含めたトータルな判断への進め方は? 		
派遣 先 意 見	制度認識手段	ホームページ:(社)産業環境管理協会	
	利用の狙い	その他:開発・設計者に対して、環境適合設計(DfE)／製品アセスメントの社会の状況、導入方法等の教育の実施	
	印象・評価 コメント	普通 内容に対して時間が短かった(第 3 部)。全体的にボリュームが大きすぎたのでは? 環境面の要求から技術者としてどのようにアプローチし、課題をクリアするかが聞きたかった。	
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) 圧倒的に初回としては適当と回答した者が多かった。しかし、QFD について知らない者が多かったために、第 3 部の内容についていくのが大変だった人も多くみられた。	
	類似制度利用	○ 無 有	
	本制度の再利用	検討しない	○ 検討する ①環境問題の概観、環境ビジネス、②環境の概要と諸手法、③有害化学物質管理、④リサイクルシステムと法整備、⑤環境・廃棄物／リサイクル関連法規、⑥環境リスク管理の実務、⑦環境マネジメントシステム／監査／環境パフォーマンス評価、⑧環境管理会計、⑨環境報告書作成実務、⑩ライフサイクルアセスメント(LCA)、⑪環境適合設計(DfE)／製品アセスメント
自由意見	定量化とその根拠の確立により、開発(決定)の透明性が維持されてよい。		
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	当協会のホームページを見ての申し込みとなった。「DfE」、「QFD」といった用語については、知らない参加者がほとんどであったことを考えると、本研修での DfE 導入手順、実践上のポイント、注意点、実施効果などを紹介できたことは、有益な情報を提供できたと思われる。		

表 3.4 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	B研究会(地域企業の集合体)	所在地	静岡県浜松市	
派遣先の概要	浜松の地元企業による合同の研究会			
派遣日	①第1回:2006.12.8(金) 13:30~15:30 ②第2回:2007.2.8(木) 13:30~15:30 ③第3回:2007.3.6(火) 13:30~16:30			
派遣者(数、属性)	①第1回:株式会社日立産機システム 環境管理センター主任技師 橋本 正 ②第2回:中央商事株式会社 CSR推進本部 環境センター 事務局長 神田英治 ③第3回:株式会社 JACO CDM 取締役 兼 事業推進部長 大塚芳裕			
参加者(数、属性)	①第1回:45名(経営者、環境) ②第2回:48名(環境管理、生産技術、EMS) ③第3回:41名(環境管理、EMS)			
アドバイスコ分野	①第1回:環境・廃棄物/リサイクル関連法規 ②第2回:有害化学物質管理 ③第3回:環境問題概論:地球温暖化対策を中心した助言			
アドバイス内容	①第1回:環境経営を推進するための能力は管理力と技術力であることを前提に、環境・廃棄物/リサイクル関連法規について解説した。 ②第2回:欧州有害化学物質規制の中でも適用範囲の広い REACH 規制を中心とした助言を行なった。その前段階として企業としての環境リスクの考え方など関連情報や講師からの参考書籍の紹介など実務的対応をサポートすることをメインとした。 ③第3回:京都議定書発効を来年に控え、現在及び今後の見通しを個別にどのように立てて対策を進めるか、排出権取引とは何か等の説明をした。			
反応(質疑など)	①第1回:中国版 RoHS の内容、実施時期 ②第2回:EU 規制、特に REACH ③第3回:地球温暖化対策推進法の適用除外、排出権取引制度の概算費用等			
派遣先意見	制度認識手段	その他:昨年度からの継続利用		
	利用の狙い	既に環境経営に積極的に取り組んでいるが、一層の充実改善をはかるため		
	印象・評価 コメント	良好 ①第1回:テーマの導入部分から取りまとめまで良好だった。 ②第2回:有害化学物質関連法令が歴史的背景から近年の動向に到るまで体系的に学べてよかった。 ③第3回:実施事例から今後の方向性まで具体的に説明されていた。		
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) ①第1回:受講者全員が理解しやすかったとコメントしている。 ②第2回:事例に沿って説明いただいたので、理解しやすかった。 ③第3回:図表を使ったパワーポイントによる説明は分かりやすかった。		
	類似制度利用	無	○ 有	
	本制度の再利用	検討しない	○ 検討する	②環境経営の概要と諸手法、③有害化学物質管理、④リサイクルシステムと法整備、⑤環境・廃棄物/リサイクル関連法規、⑥環境リスク管理の実務、⑦環境マネジメントシステム/監査/パフォーマンス評価
	自由意見	画一的ではなく、事前打ち合わせで実状に合わせた研修をしていただければよい。		
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	昨年度からの継続実施となるが、受講者の全体的な環境意識は高い。浜松には大手自動車メーカーなど先進的に環境に取り組んでいる企業が多いことから、今回のアドバイザー派遣でも実務に即した質問が出されることも少なくなかった。環境経営の充実・改善に大いに役立つ研修になったと思われる。			

表 3.5 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	B社(機械・部品製造系)	所在地	大阪府摂津市
派遣先の概要	油圧製品(電磁弁、ポンプ、オイルクーラー等)		
派遣日	2006.12.14(木) 15:00~16:00		
派遣者	株式会社日立産機システム 環境管理センタ主任技師 橋本 正		
参加者(数、属性)	80名(油機事業部取引先各社)		
アドバイス分野	有害化学物質管理		
アドバイス内容	有害化学物質についての初歩的な部分について説明した。有害化学物質の歴史と問題点、事故事例と管理体制整備事例、新制度とリスク管理、EU規制などについての概要を述べ、環境経営における有害化学物質管理の重要性を強調した。		
反応(質疑など)	特になし。		
派遣先意見	制度認識手段	その他:NPO 法人資源リサイクルシステムセンター	
	利用の狙い	その他:取引先への情報提供	
	印象・評価 コメント	良好 11月に協力会社主催で環境講習会を開催したが、内容が非常に乏しく評判が悪かったが、今回の研修は評判がよかった。	
	分かり易さ コメント	易しすぎた 研修時間を十分にとれず、講師は表面的な説明をする時間しかなかったと思われ、申し訳ないと思っている。ただ、油機事業部としては初めての試みであり、取引先の底辺を持ち上げるという意味では、十分な効果があったと考えている。	
	類似制度利用	○ 無	有
	本制度の 再利用	検討しない	○ 検討する ⑦環境マネジメントシステム/監査/パフォーマンス評価 ⑨環境報告書作成実務 その他:環境保全/公害防止技術
	自由意見	講習内容としては、非常に価値のあるものであったので、今後もこのような機会があれば、是非実施していきたい。	
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	当協会の自主事業で提携している団体が本事業についてB社に紹介し、利用が決まった。自社の社員ではなく、ステークホルダーとしての取引先の人材に対し研修を行うというケースは珍しいが、環境意識の薄い層への普及活動として意義深いものとなったと考えている。		

表 3.6 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	C 社(機械製造系)	所在地	東京都新宿区	
派遣先の概要	水処理装置、製品(塔槽類)等			
派遣日	2006.12.20(水) 13:30~16:00			
派遣者(数、属性)	KEN_Systems 山田賢次			
参加者(数、属性)	35 名(グループ会社の環境管理担当者)			
アドバイス分野	環境マネジメントシステム/監査/パフォーマンス評価			
アドバイス内容	EMS 取得のための研修ではなく、取得後にどのように活用していくかの具体的な話が中心となった。EMS 構築上の要点、内部監査の方法、環境コミュニケーションの重要性等、事例を通して説明した。また、C 社の環境経営について、講師があらかじめ調査を行い、配付資料(パワーポイント投影データ)に盛り込んで、問題点・改善点について指摘した。			
反応(質疑など)	<ul style="list-style-type: none"> ・構築した EMS の評価基準 ・環境経営は、何を中心に行ったらよいか ・環境経営ランキングについて 			
派遣先意見	制度認識手段	②ホームページ:(社)産業環境管理協会		
	利用の狙い	既に環境経営に積極的に取り組んでいるが、一層の充実・改善を図るため		
	印象・評価 コメント	普通 講演内容が幅広くなりすぎた。もう少し的を絞って実施した方がよいと思う。		
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) 事例を多く盛り込んでいただき、理解しやすかった。		
	類似制度利用	○ 無	有	
	本制度の 再利用	検討しない	○ 検討する	②環境経営の概要と諸手法 ⑥環境リスク管理の実務 ⑩ライフサイクルアセスメント(LCA)
	自由意見	画一的ではなく、事前に打ち合わせし実状に合わせた研修をしていただけるのは有難い。		
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	C 社は水処理メーカーの老舗であり、環境経営の必要性に迫られて、平成 8 年より ISO14001 取得を推進しており、5 事業所+5 グループ会社で認証を取得していた。しかし、システムが有効に働いているとはいえない、紙ゴミ電気しかやっていない事業所は認証を返上した。については、環境への取り組みを再構築するために何をすべきか、EMS というシステムの中で何ができるのか、リスク管理や緊急時の対応など、具体的な事例を盛り込んで講演していただきたいとの依頼があり、実施に至った。もともと C 社は、当協会の LCA 研修を受講してアドバイザー制度を知った経緯があり、ご来訪いただいて入念な準備ができたため、希望に沿った研修となった。ただ、内容を盛り込みすぎた感があり、決められた時間の中ですべて説明するのは無理があったかもしれない。これを糧に、時間配分についても考慮していきたい。			

表 3.7 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	D 社(精密機械器具製造系)	所在地	東京都西東京市
派遣先の概要	時計、液晶テレビ、電子辞書等		
派遣日	2007.1.12(金) 13:10~17:10		
派遣者	①中央商事株式会社 CSR 推進本部 環境センター 事務局長 神田英治 ②株式会社日立プラントテクノロジー 環境・安全本部 環境グループ部長 中村勝彦		
参加者(数、属性)	97 名(設計開発、生産技術、品質管理、資材調達、環境管理等)		
アドバイス分野	①有害化学物質管理、②環境リスク管理の実務		
アドバイス内容	第1部では、有害化学物質全般の話と日本の新制度を中心とした話、第2部では地球環境問題と海外の事故事例・規制動向を中心とした講義を行った。大手菓子メーカーが消費期限切れ原料を使用するなど、企業の不祥事が続く中、第二部では企業のCSRを含め、ガバナンスを構築して環境リスク管理に対応していく必要がある旨の講義を行った。		
反応(質疑など)	②化学物質規制・リスクマネジメントの企業側の対応事例にはどんなものがあるか。		
派遣 先意 見	制度認識手段	実施機関からの直接の働きかけ	
	利用の狙い	既に環境経営に積極的に取り組んでいるが、一層の充実・改善を図るため	
	印象・評価 コメント	普通	
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) 理解を促す事例が豊富だった。	
	類似制度利用	○ 無	有
	本制度の 再利用	検討しない	○ 検討する ④リサイクルシステムと法整備 ⑦環境マネジメントシステム/監査/パフォーマンス評価
	自由意見	アドバイザー派遣が本年度で終わり、来年からは環境スキル研修が開始されると聞いている。有用な事業を期待している。	
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	一昨年度に利用があり、2回目の利用となった。精密機械製造の筆頭に挙げられ、海外への輸出が多い D 社にとっては EU 規制等、海外規制への対応が必須である。本研修では、国内外での環境リスク事例を多く紹介し、環境リスクマネジメントの構築方法について詳解したので、参加者に有益な情報を提供できたと考えている。		

表 3.8 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	B 協議会(地域企業の集合体)	所在地	岐阜県美濃加茂市	
派遣先の概要	岐阜県中濃地域の製造業を中心とした協議会			
派遣日	2007. 1. 22(月) 13:30~16:00			
派遣者(数、属性)	①株式会社クレアン 大阪本社 CSRコンサルティング事業部 浦上英朗 ②名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部 教授			
参加者(数、属性)	50名(企業、市町村・県職員)			
アドバイス分野	①環境報告書作成実務、②ライフサイクルアセスメント(LCA)			
アドバイス内容	①環境報告書の普及を目的に、環境報告書を作成することの意義と企業としてのメリットについて助言し、実際の作成方法について説明した。 ②ライフサイクルアセスメント(LCA)の普及を目的に、その背景と意義について助言し、具体的な手法について、ケーススタディを挙げながら説明した。			
反応(質疑など)	特になし。			
派遣先意見	制度認識手段	その他:昨年度も利用。		
	利用の狙い	その他:各企業において環境に携わる者の幅広い知識習得のため		
	印象・評価 コメント	良好 ①環境報告書の実例から具体的に学ぶことができ、講師が参加者に質問をして考えさせたところが良かったが、もう少し、環境報告書の構成事例を詳しく説明してほしいかった。 ②LCAについては、参加者が良く知っているISOとの関わりから始まり、やかんを例として説明していただき、入門として分かりやすくてよかった。		
	分かり易さ コメント	適当(理解しやすかった) 資料が大変見やすく、理解しやすかった。		
	類似制度利用	☐ 無	☒ 有	
	本制度の再利用	☐ 検討しない	☒ 検討する ①環境問題の概観・環境ビジネス ③有害化学物質管理 ⑤環境・廃棄物/リサイクル関連法規 ⑥環境リスク管理の実務 ⑧環境管理会計	
自由意見	-			
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	岐阜県中濃地域の廃棄物排出登録事業者の集合体で、昨年度に続いての利用となった。担当者がわざわざ岐阜県からお見えになり、事前打ち合わせを行ったため、希望に沿った研修となったと考えている。ただ、講師の力量もあるが、テーマとしても講義方法が難しい「環境報告書」については、報告書に盛り込む要素についていまひとつ説明し切れなかった感がある。このテーマについては、研修方法を検討していかなければならないだろう。			

表 3.9 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	E 社(電気機械器具製造系)	所在地	埼玉県所沢市
派遣先の概要	ホームエレクトロニクス、カーエレクトロニクス等		
派遣日	2007.2.9(金) 13:30~15:30		
派遣者	茨城大学 非常勤講師 大岡健三		
参加者(数、属性)	97 名(開発・技術、品質・環境、管理・支援系、その他)		
アドバイス分野	環境リスク管理の実務		
アドバイス内容	イントロダクションで DfE の有用性について触れ、いま環境経営が求められている社会的背景、メーカーが抱える環境リスクについて、豊富な事例を挙げながら説明した。項目としては、環境リスク関連法規、海外環境規制の動向、環境リスク管理の方法、土壌・地下水汚染の評価、リスクコミュニケーションなど。		
反応(質疑など)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品添加物は、規制基準内であれば何種類入っていても問題にならないか。 ・プラズマTV のガラス・パネルに含有する“鉛”が、RoHS 指令禁止物質の除外対象になったのはなぜか。 		
派遣先意見	制度認識手段	パンフレット受領	
	利用の狙い	既に環境経営に積極的に取り組んでいるが、一層の充実・改善を図るため	
	印象・評価 コメント	良好 全体的に好評であったが、内容が広範囲にわたったため時間不足の感があった。もう少し突っ込んだ内容も聞きたかった。	
	分かり易さ コメント	適当 事例が豊富に盛り込まれていて、非常に分かりやすかった。	
	類似制度利用	○ 無	有
	本制度の 再利用	検討しない	○ 検討する ⑤環境・廃棄物／リサイクル関連法規 ⑩ライフサイクルアセスメント(LCA) ⑪環境適合設計(DfE)／製品アセスメント
	自由意見	環境への取り組みを企業の社会的責任として、また、リスクマネジメントの重要課題として捉えるべく、意識付けるためのよい機会となった。	
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	循環ビジネス育成事業・長野研修に参加して本制度を認知し、利用申込があった。電気機械器具製造のパイオニアともいえる E 社では、日頃から環境経営に積極的に取り組んでいる。今回は主に設計に携わる社員向けに、DfE につながるような環境リスク管理の話をしてほしいとの依頼が講師指定であった。聴講者を眠らせない、あきさせないという大岡講師の独特の講演スタイルで行われた研修は、環境リスク管理に対する意識を大いに啓発させるに十分な研修になったと考えている。		

表 3.10 アドバイザー派遣実施概要

派遣先	F 社(機械・部品製造系)	所在地	長野県軽井沢市
派遣先の概要	ベアリング、モーター等		
派遣日	2007.2.23 10:00~16:00		
派遣者	①名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部 教授 成田暢彦 ②(独)産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 主任研究員 増井慶次郎		
参加者(数、属性)	57 名(技術、品質管理、製造、物流、資材)		
アドバイスコ分野	①ライフサイクルアセスメント(LCA)、②環境適合設計(DfE)・製品アセスメント		
アドバイス内容	①LCA の基本的概念、DfE との関係、手法についての講義を行った。 ②DfE の概要と意義、実務、QFD、QFDE についての講義を行った。		
反応(質疑など)	①LCA について ・LCA の中では、物流についてどのように捉えるか。 ②DfE について ・QFDE の油圧ショベルの事例の中で「6」を使っているがよいのか。 ・QFDE 用のソフトウェアはあるか。 ・スライド161で算出している顧客要求に対する改善率の算出方法を教えてほしい。 ・工学的尺度はできるだけ細分化した方がよいのか。		
派遣 先 意 見	制度認識手段	ホームページ:(社)産業環境管理協会	
	利用の狙い	今後の環境経営の促進に必要な諸手法を知る(学ぶ)ため	
	印象・評価 コメント	良好 LCA については、初めての受講者が多かったため、それに合わせて分かり易い講義をしていただいたように感じた。DfE については、専門的な内容で設計部門では今後の実務に反映していける講義内容であったと思う。講師の方にはご尽力いただいた。	
	分かり易さ コメント	①適当 ②難しすぎた LCA については理解しやすい内容であったと思う。DfE については、通常の業務で設計、技術に携わっている者には理解しやすかったのかもしれないが、そうでない者にはやや難しかったかもしれない。ただ、講師の方が、できるだけ易しく説明しようとしていたことが感じ取れた。	
	類似制度利用	○ 無	有
	本制度の 再利用	検討しない	○ 検討する ②環境経営の概要と諸手法 ⑥環境リスク管理の実務 ⑨環境報告書作成実務 その他:環境ラベル等の情報公開手法
	自由意見	一度にこれだけの人員を外部講習に参加させることはなかなか難しく、今回のように全員が同じ講義を聞き、知識、認識を同一にする機会を得たことに感謝している。今後もこのような事業が継続されることを希望する。	
実施機関コメント 実施決定経緯 実施時の印象 (熱意、派遣先に対する有効性など)その他	当協会のホームページを見て、申し込みがあった。ベアリング製造の大手である F 社では、今後 LCA、DfE の導入が必須のものであるとの認識から、その契機として主に設計者を対象として本研修を企画した。QFD についての知識はあっても、LCA、QFDE については初めて耳にする人も少なくなく、環境意識を啓発するよい研修となったと考えている。特に EuP 指令が LCA を要求していることについては、驚きの声ももれた。LCA への取り組みの必要性を痛感したと思われる。		